

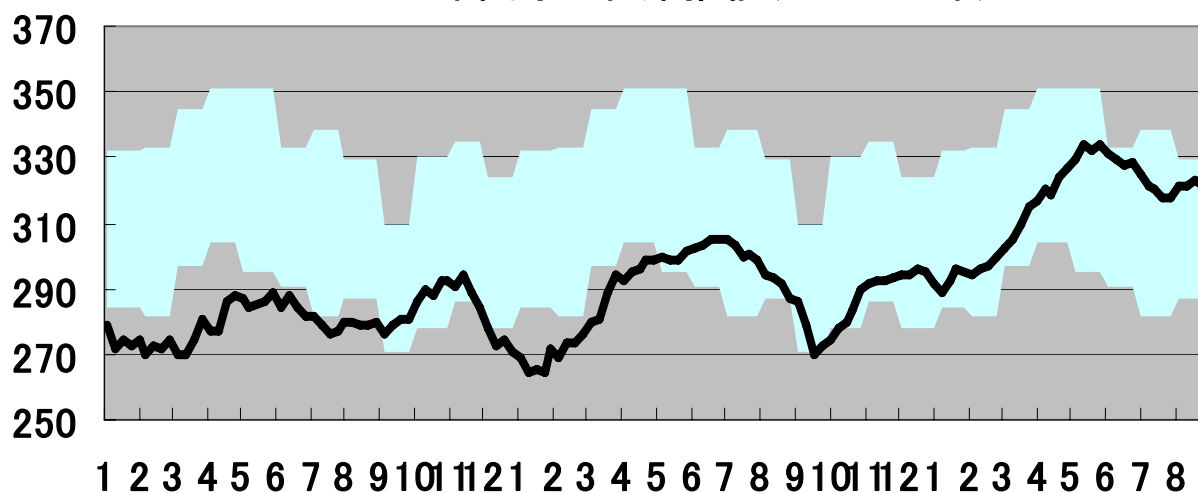
# 9月第2週末現在の石油市況

## 調査部

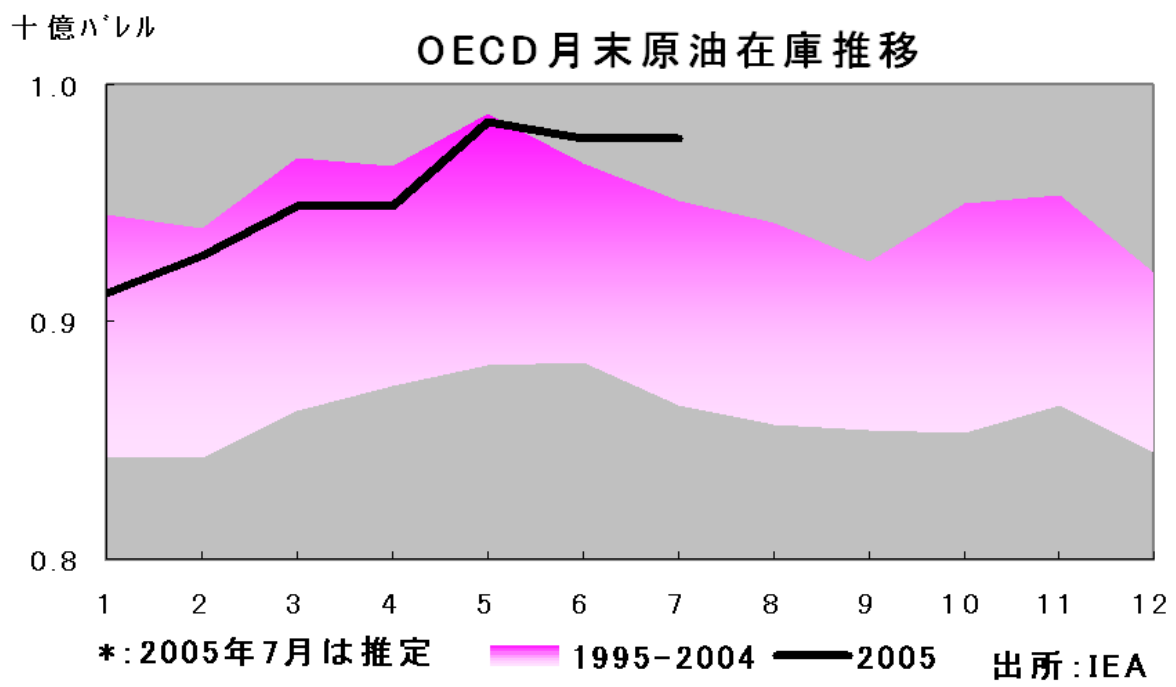
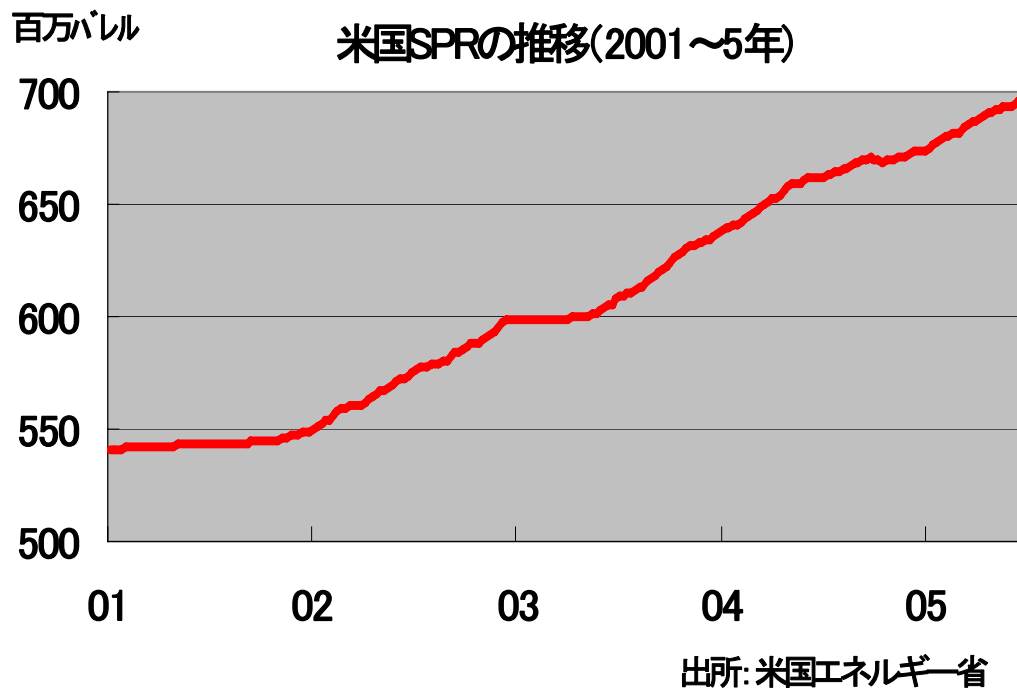
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

百万バレル

米国原油在庫推移(2003~5年)



■ 1997-2002実績幅 — 2003-2005 出所: 米国エネルギー省



# 中国石油需要

・本年前半(1~7月)は、昨年比で輸入の  
伸びは**マイナス!**

原油+製品輸入はネット ▲5%

・昨年1年間の伸びは

原油+製品輸入はでネット 47%増(88万B/D増)

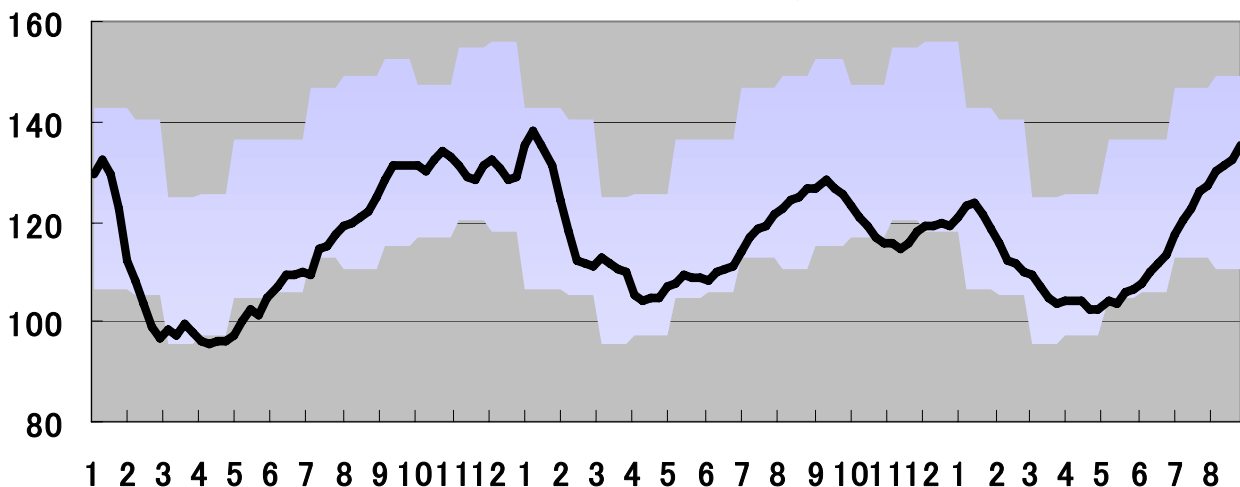
昨年の爆発的輸入増は、石炭生産障害による  
自家発電用(仮)需要

・04年と05年を平均すると、**ほぼ過去10年の平年並み**  
の輸入増加率

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

百万バレル

米国留出油(軽油+暖房油)在庫推移

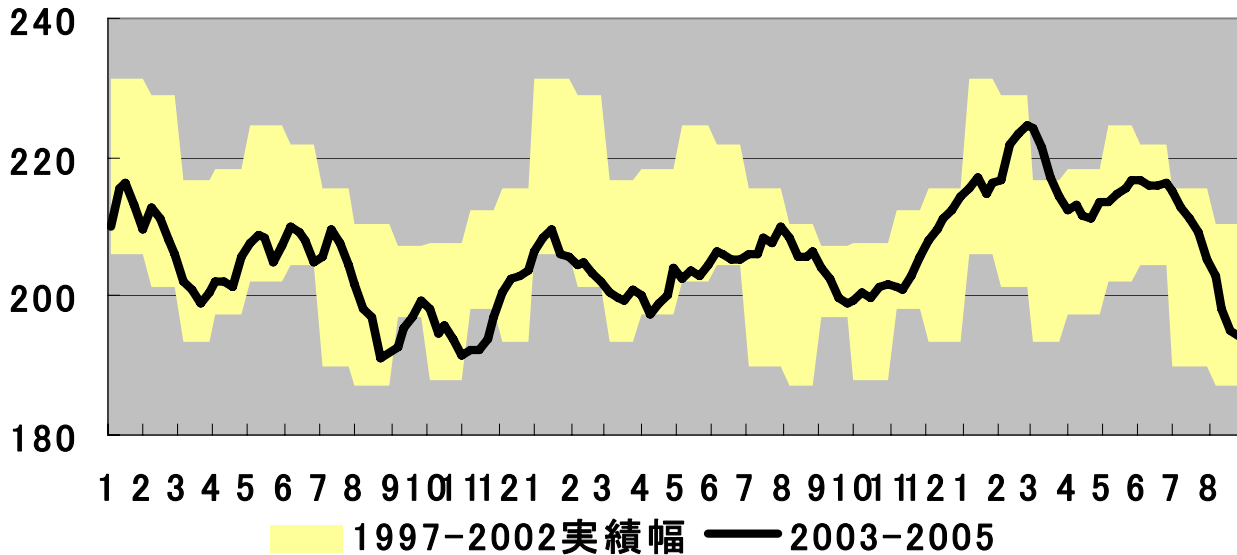


■ 1997-2002実績幅 — 2003-2005

出所: 米国エネルギー省

百万bbl

米国ガソリン在庫推移(2003~5年)



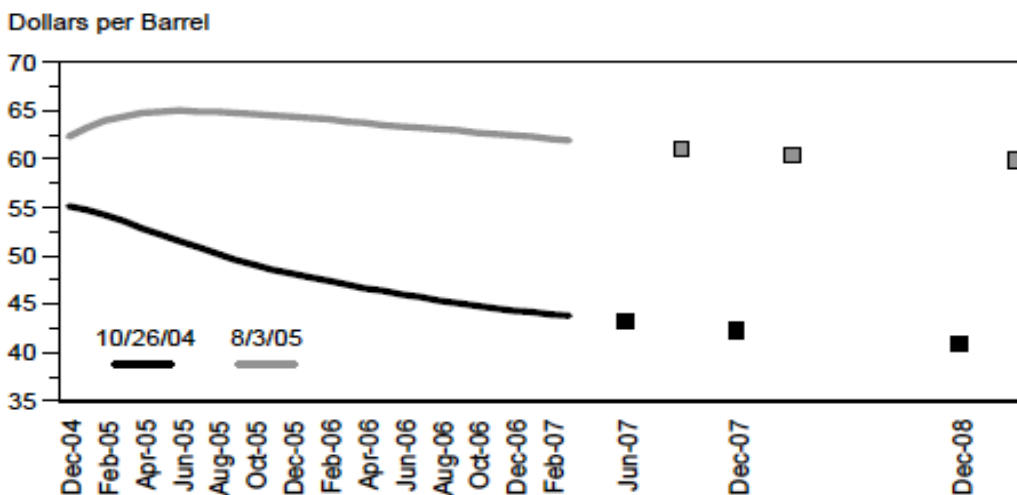
出所：米国エネルギー省

年金基金等素人筋の長期先物参入増大？

価格高騰の主要因：ピークオイル論の効果！？

短期取引のヘッジファンドは主役でなくなった！？

WTI Forward Price Curve — 10/26/04 vs. 8/3/05



## 今後の原油余剰生産能力

- ・今後余剰生産能力は実質サウジにのみ存在
  - ・サウジの政策は「市場状況に応じて、  
1.5~2百万B/Dの余剰能力保有」と明言
  - ・需要・非OPEC生産の伸び如何に関わらず、  
世界の余剰能力は長期にわたり2%程度に  
“Lock in”される運命！ (適正レベルは5%程度？  
90年代後半は5%程度)
- 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

## 新たな懸念材料 1

### ハリケーン カトリーナの後遺症

・シャットイン生産量(9/9現在)

原油 約90万B/D 数週間で10~20万B/Dへ  
(MMS)

精製 約110万B/D 復旧に数ヶ月~半年？

・OECD公的備蓄量: 1240百万B(内製品220同左)

(内米国SPR備蓄量: 700 同上 : 内製品ゼロ)

・今次放出決定量 : 60 同上: 内製品30同左

・OECD商業在庫量: 2350同上: 平年より約100同左多い

後遺症想定(最悪ケース?)

原油30万BD×6ヶ月 = 約40 同上? 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

製品50万BD×6ヶ月 = 約90 同上?

## カトリナ被害の原油生産回復シナリオ (DOE9.08)

11～12月には全面回復と予想

Recovery Scenarios Following Hurricane Katrina

Domestic Supply and Prices	Monthly 2005					Annual		
	Aug (Est)	Sep	Oct	Nov	Dec	2004	2005	2006
Crude Oil Production (mmbd)								
Fast Recovery	5.338	4.720	5.326	5.382	5.515	5.419	5.356	5.617
Medium Recovery	5.338	4.580	5.116	5.382	5.515	5.419	5.327	5.617
Slow Recovery	5.338	4.300	4.836	5.172	5.375	5.419	5.251	5.617

11

### 新たな懸念材料 2

#### ・既存・新規上流投資の政治ハザード増大

##### イラン新大統領登場

ベネズエラ、ナイジェリア、カザフスタン、ロシア、ブラジル ……政策(増産インセンティブ減少:外資締め出し)



**高価格のパラドックス(より少ない生産量で高収入確保)**

#### ・生産不透明(治安悪化)

イラク、エクアドル…(サウジのシャイハがアルカイダの標的に!)

#### ・投資環境好転は、リビア、アルジェリア程度

12